



JIC新体制発足後 1年間の取り組みについて

2020.12.8

株式会社産業革新投資機構
(Japan Investment Corporation)

1. 1年の振り返り

2. JICの投資戦略（LP投資）について

3. リスクマネー好循環創出に向けた基盤づくり

1. 1年の振り返り

**当社は、オープンイノベーションによる企業の成長と
競争力強化に対する資金供給を通じて民間投資を促進するとともに、
投資人材の育成等を行い、
我が国の次世代産業を支えるリスクマネーの好循環を創出します。**

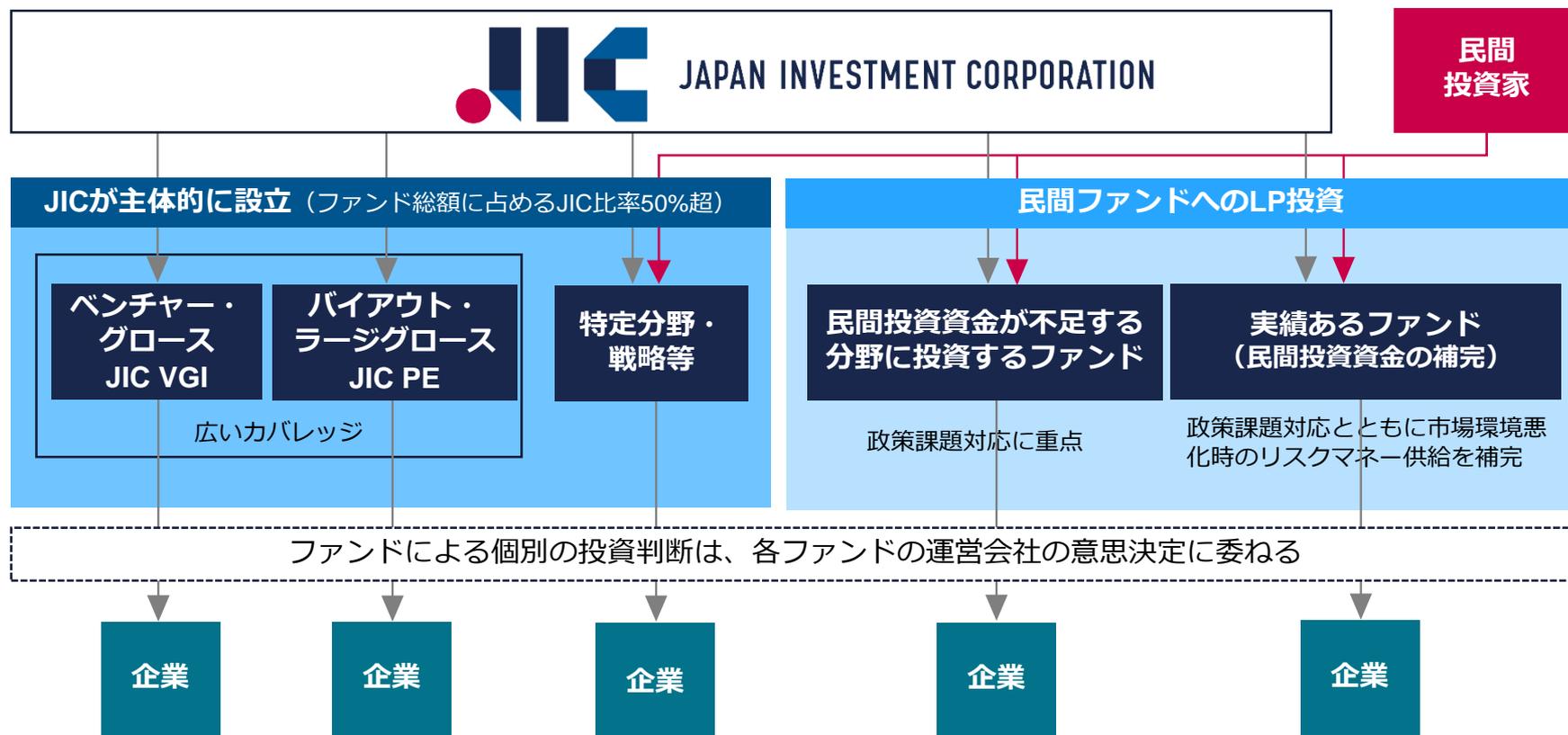
(1) 企業の成長と競争力強化に向けたリスクマネーの供給



(2) 我が国のリスクマネーの好循環創出に向けた基盤づくり



- JICの経営理念に基づき、民業補完の原則の下、ファンド投資を通じて企業の成長と競争力強化に向けたリスクマネー供給を行う。
- 投資戦略として（１）JICが主体的に設立するファンドへの投資と（２）民間ファンドへのLP投資を実施。
- 今般提示するLP投資の考え方に基づき、今後、民間ファンドへのLP投資も推進。







株式会社iCARE

健康管理業務を効率的且つ効果的に行うための
SaaSサービス「Carely」を提供し、
働くひとと組織の健康創りを支援



アソビュー株式会社

観光・サービス産業のDXや生産性向上、
地方創生のための導線を後押しする体験
サービスの予約プラットフォームの提供



株式会社ウフル

産業・地方のDXやデータ活用の推進、
スマートシティの実現のための
IoTソリューション「enebular (エネブラー)」
と「Loocus (ルーカス)」の提供



株式会社Quemix

量子コンピューティングの産学連携での
研究開発と社会実装の領域の開発(材
料、創薬、小売・物流等)を通じた、
量子コンピューティング領域の牽引



ココン株式会社

IoT機器やコネクテッドカー等の高度な
診断技術を必要とする先端的な領域における
サイバーセキュリティ関連サービスの提供



株式会社モンスター・ラボ

日本発、各産業分野での世界のDX推進を
通じた生産性向上を支援するプロダクト、
デジタルコンサルティングサービスの提供

1. 新たな組織・体制の構築

- JIC本体のファンド投資機能を担う新しい組織の構築・人材採用
- JIC傘下のファンドの立ち上げ（組織設計・人材採用・INCJからの移行）
- JIC & INCJ職員との対話
- INCJの知見・経験の引継ぎ

2. JICグループ全体での投資活動の開始

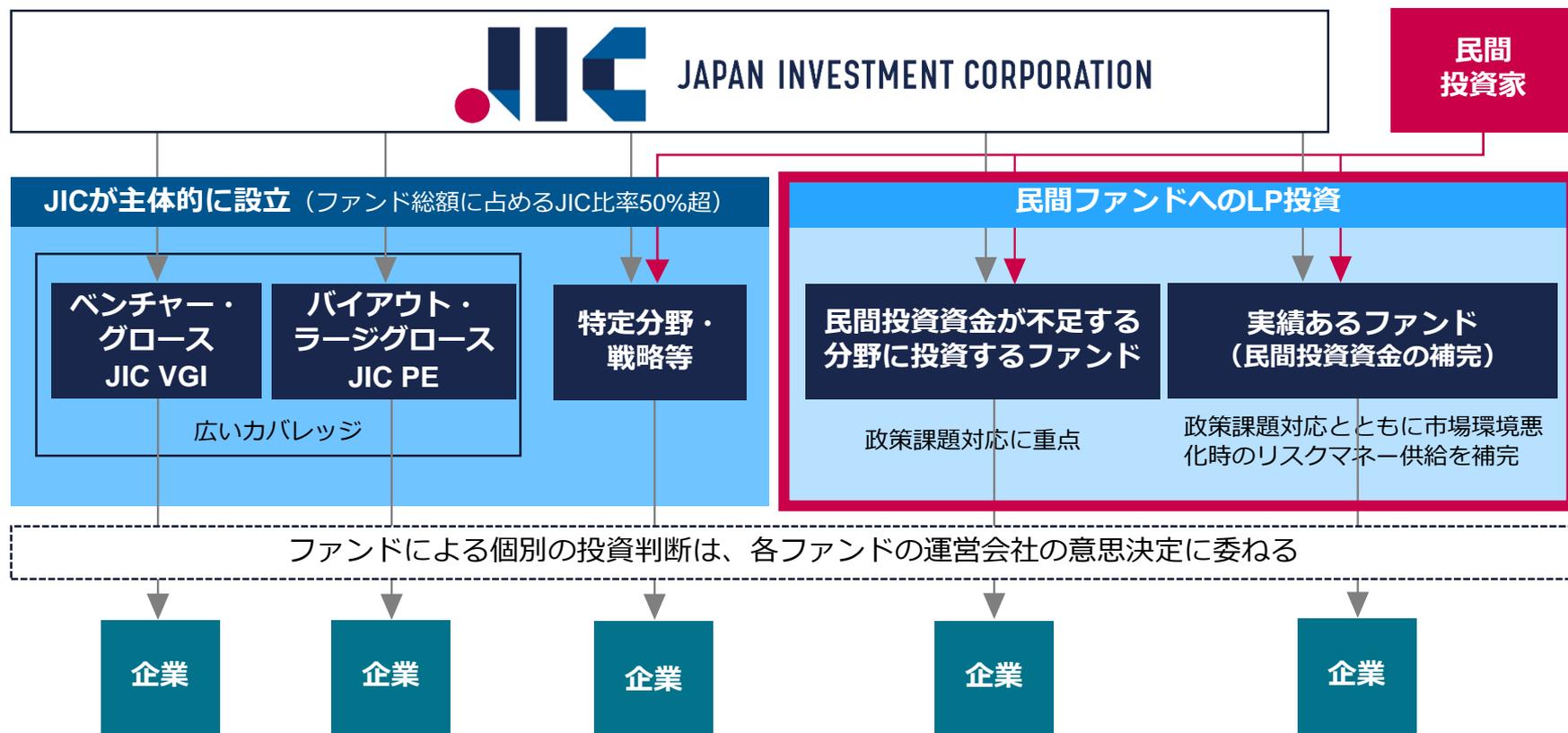
- JIC全体の投資戦略の策定（民業補完の原則の下、「呼び水」効果を創出）
- JIC VGIにおける第1号案件群の投資決定
- JIC PEにおける投資検討活動開始
- JICによる民間ファンドへのLP投資の開始

3. 新型コロナウイルス感染拡大を踏まえた業務の遂行

- JICが果たすべき役割（産業競争力強化に向けたリスクマネー供給）に一層注力
- 全社的なリモートワークの実施・DX推進により、「新しい生活様式」に円滑に移行
- 感染症対策を実施したうえで、当初からの計画（上記2）を着実に遂行

2. JICの投資戦略（LP投資）について

- JICの経営理念に基づき、民業補完の原則の下、ファンド投資を通じて企業の成長と競争力強化に向けたリスクマネー供給を行う。
- 投資戦略として（1）JICが主体的に設立するファンドへの投資と（2）民間ファンドへのLP投資を実施。
- 今般提示するLP投資の考え方にに基づき、今後、民間ファンドへのLP投資も推進。



1. 企業の成長と競争力強化に向けたリスクマネー供給の「呼び水」

- 産業競争力強化の観点から重要だが民間投資資金が不足している分野（投資戦略、セクター、ステージ、地域等）への資金供給を行い、短期及び中長期的な民間投資資金の「呼び水」となる。

2. リスクマネーの好循環を支える多様な投資チーム・投資人材・投資戦略の創出

（1）投資チーム

- JICの投資を通じて、ファンドの投資チーム（運用会社）の経験値とトラックレコードを積み上げ、投資家への対応力を上げることで、次号ファンド以降機関投資家（年金・海外投資家等）からのリスクマネー仲介の担い手としての成長を促進。

（2）投資人材

- JVCA等の業界団体、機関投資家、投資先運用者の協力を得ながら、運用者におけるベストプラクティスの研究・導入、投資人材の育成を支援。

（3）投資戦略

- 日本に定着している戦略以外の戦略でも、ファンド設立等に対しJICがLP投資することで市場に多様性と厚みを付加。

短期的な呼び水効果

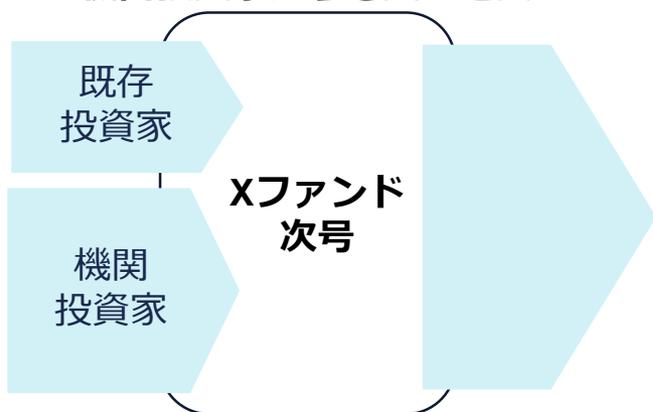
中長期的な呼び水効果

① JICの投資を受けたファンドに対する他の投資家の投資を呼び込み



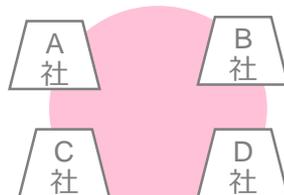
ファンドマネージャーの成長
実績形成

③ 次号ファンドでより多くの資金を募集 機関投資家からも資金を受託



② 他の投資家からの投資の呼び込み

リスクマネーが不足する領域



(例) ・地方に眠る技術シーズ
・産学連携による研究成果の事業化

企業価値増大・リターン創出



従来は投資が困難だった分野でも
投資可能性が高まる

投資領域に関する情報発信
経験・知見の共有

④ 新たな投資領域の発展により、 他のファンドからもリスクマネーが流入

リスクマネーが充足
イノベーション創出増加



- 日本国内のVCは、欧米に比べ、年金等の機関投資家からの投資が少なく、中長期的な成長を支えるリスクマネー供給の観点から大きな課題。
- JICによる投資を通じて国内のファンドが機関投資家から資金受託できるよう成長を促進する。



課題

機関投資家が資金受託者（投資チーム）に期待すること

- （例）
 - 10年以上にわたりグロス2.0倍以上のトラックレコード
 - 得意分野へのフォーカス
 - 機関投資家へのレポーティング対応
 - 内部管理・内部統制を担保する組織・業務プロセスの整備

JICによるサポートの例



- 機関投資家視点でのファンド運営全般に対する助言
- 組合契約主要条件の整備
- 機関投資家ネットワークへの仲介
- 組織・業務プロセス構築
- 機関投資家が求めるDD・レポーティング等の体制整備
- JICが主体的に設立するファンドとLP投資先ファンド等の協業によるネットワーク拡充
- 投資先に関する規制・制度の課題について、政府との対話をサポート

目指す成果

ファンドの成長・ユニバースの充実

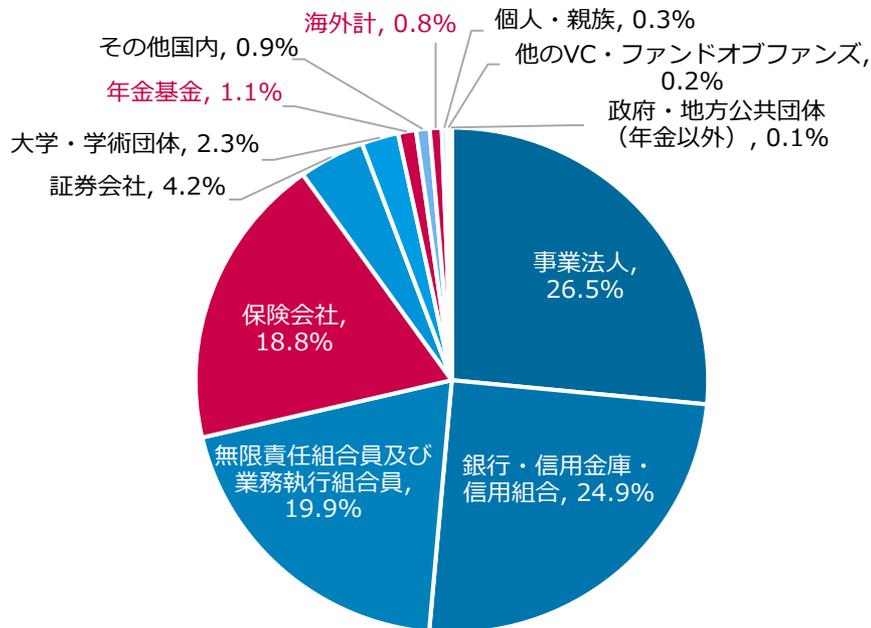
- 次回募集ファンドでのファンドサイズ拡大、機関投資家からのLP投資増加
- 機関投資家の投資対象となり得る投資チームの増加

(参考) VCに対する出資者の国際比較



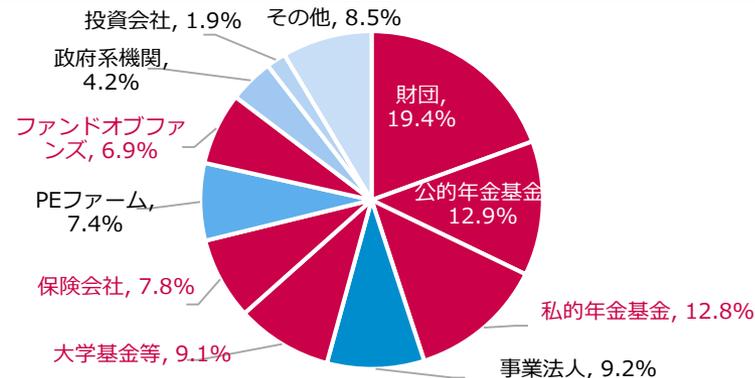
- 欧米のVCと比較すると、日本の国内VCの多くは、年金基金、海外投資家資金、FOF資金等を受託できておらず、事業会社からの出資が大きな割合を占めている。
- しかしながら、事業会社による出資は会社の業績に左右されやすく、本業とのシナジーを求める側面もあるため、ファンドの規模拡大や安定的な運営を継続するには、機関投資家による資金受託を拡大できるように、投資チームのファンド運用を改善していくことが必要。

日本



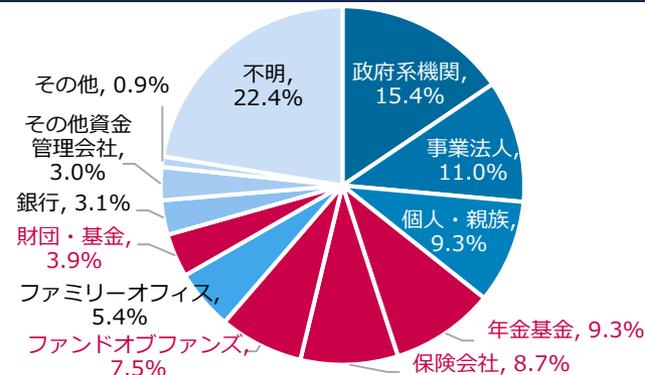
(出典：一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター，ベンチャー白書2020)

米国



(出典：Preqin and First Republic Update: US Venture Capital in 2019, Investors in US-Based Venture Capital Funds by Investor Type (Vintage 2010-2019))

欧州



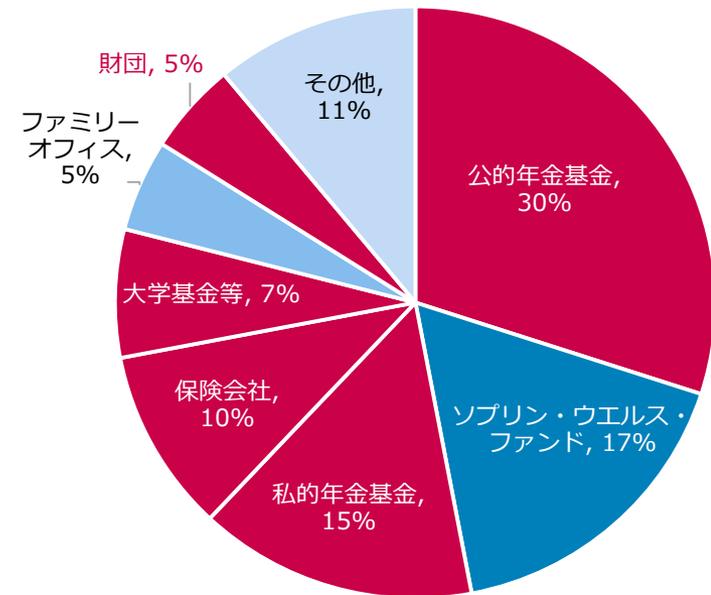
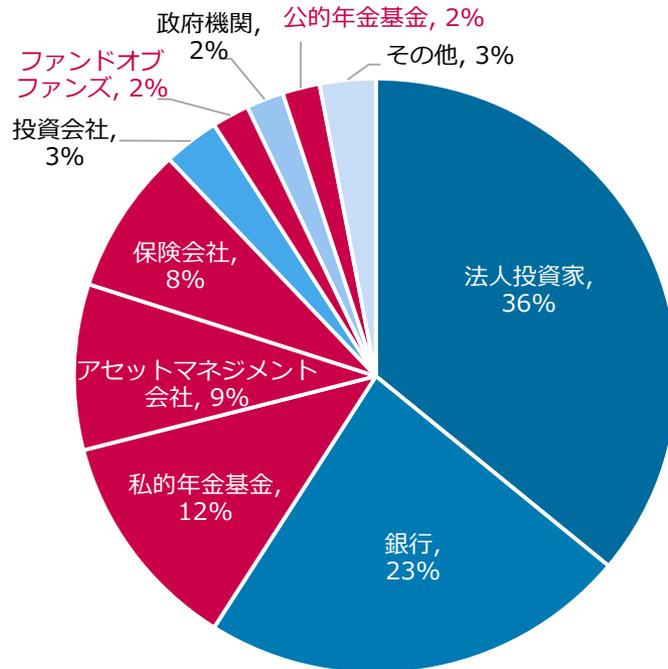
(注) 欧州内に運営基盤のあるVCファンドへの出資者 (欧州外からの出資も含む)

(出典：一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター (VEC)，ベンチャー白書2020, Invest Europe, Investing in Europe: Private Equity Activity 2019よりVEC作成)

- グローバルではPEファンドに投資を行っている投資家の約3割が公的年金基金だが、国内で公的年金基金からの投資は全体のうちわずか2%に留まっている。

日本

世界全体



(注) 日本を基盤としている機関投資家によるPE投資金額 (AUM) タイプ別割合

(注) PE投資金額 (AUM) に占める各投資家タイプの割合

(出典: 経済産業省第四次産業革命に向けたリスクマネー供給に関する研究会 取りまとめ参考資料, "Private Equity growth in transition" 2016, Deloitte Center for Financial Services, "Japan-Based Investors in Alternative Assets" 2016 Preqinを基にデロイト トーマツ コンサルティング作成)

1 産業競争力強化に関連する政策課題の解決に貢献する投資戦略*であること

*投資戦略：手法、セクター、ステージ、地域等

2 民間投資資金が不足している分野であること

3 運用者に投資戦略の遂行能力があり投資成果が期待できること（投資評価）

※上記基準に加えて、募集状況、ファンド（運用者）の成長段階、JICの役割・ポートフォリオ等の観点を総合的に勘案する。

- ファンドが対象とする投資戦略（手法、セクター、ステージ、地域等）について、産業競争力の強化に関連する政策課題の解決に貢献することが期待できるかを考慮する。
- 対象となる政策課題や分野等については、JIC投資基準で示された重点投資分野を中心として、JICにおける分析や政府との対話を通じて検討していく。

重点投資分野

Society
5.0

Society5.0に向けた 新規事業の創造の推進

事業者にとってや不確実性が高い非連続的な成長が必要であり、長期かつ大規模なリスクマネー供給を必要とする新規事業の創造に係る事業分野を支援



ユニコーンベンチャー の創出

グローバルな経済圏において競争力をもって持続的に成長することを目標とするユニコーンベンチャーを創出



地方に眠る 将来性ある技術の活用

高い収益が期待できる技術力が多数あるにもかかわらず十分に活用されていない地方の大学発ベンチャー等の資金需要に対応



産業や組織の枠を 超えた事業再編の促進

国際競争力を持ちうる事業分野において、オープンイノベーションに向けた大胆な事業再編を通じて産業競争力の強化を支援

- 民間投資資金の充足状況を考慮する。
- (1) 我が国において民間リスクマネー供給が不足している分野（セクター、手法等）であるか、(2) 市場環境の悪化等により民間資金が縮小している状況にあるか、等を検証する。
- 民間ファンドの状況やマクロの資金環境等について分析等を行いつつ検討を行う。

1. 民間投資資金が不足している分野（セクター、手法等）

- 投資成果が出るまで長い期間や多額の資金が必要なセクターやステージ
- 有望な技術や事業を成長に導くための資金が回りにくいセクターや地域
- 我が国では確立していない投資戦略や手法 等

* これらの状況を分析し、セクター、ステージ、地域等でマッピング

* 新たな戦略や手法については、欧米等の状況との比較検討を実施

2. 市場環境の悪化等による民間資金の縮小

- 市場環境の悪化等による民間投資家のLP資金の縮小状況
- 民間資金の補完によるリスクマネー供給の循環を促進する蓋然性

* この観点からは、一定の実績あるファンドも対象とし、今後、機関投資家からの資金受託を期待できるか（民間主体のリスクマネー供給につながるか）も考慮

- 運用者の（１）投資評価（２）リターン目標の達成可能性、（３）次号ファンド以降の機関投資家等からの資金調達の可能性の観点から投資を検討する。

投資評価の項目（例）

1. 投資評価

- 投資戦略の有効性、ソーシング、デューデリジェンス、ハンズオン支援、ポートフォリオ管理
- 意思決定の仕組み
- チーム
- インセンティブ
- リターン水準
- リスク水準
- 外部評価

2. 資金委託先としての適切な業務執行

- 法令順守体制
- 他の事業等とのコンフリクト
- ミドル・バック体制
- ESG/SDGsに関する取り組み

3. 情報開示、レポーティング、投資家対応

- DD時提供資料
- 四半期報告（公正価値評価）

4. 契約条件

- 経済条件
- 投資制限
- GP業務制限
- リスク管理条項

投資概要

- 投資先：Beyond Next Ventures 2号投資事業有限責任組合
- 出資約束額：40億円
- 運営：Beyond Next Ventures株式会社

主な投資対象・投資戦略

- 投資対象：大学発ベンチャー、技術系ベンチャー及びカーブアウトベンチャー
- 業種：バイオ、ライフサイエンス、ヘルスケア、AI、IT、ロボット等
- 医療・ヘルスケア分野をはじめ大学・研究機関・企業の有する優れた技術シーズの事業化に注力
- 地方の大学とも連携を強化し、地方に眠る技術シーズの掘り起こしを企図

JICによるLP投資の目的

- 地方における技術系スタートアップに対するリスクマネーの供給を補完
- 民間資金の呼び水として産学連携を通じたエコシステム醸成に貢献
- 投資チームが将来、機関投資家等からの資金受託を拡大できるように支援

会社概要

Beyond Next Ventures株式会社



Beyond
Next
Ventures

事業内容	スタートアップへの出資事業および付随するその他業務
代表取締役社長	伊藤 毅
設立	2014年8月12日
運営ファンド	<ul style="list-style-type: none"> • Beyond Next Ventures 1号投資事業有限責任組合 • Beyond Next Ventures 2号投資事業有限責任組合
運用総額	約200億円
投資対象	主に医療・ヘルスケア分野を中心とした、技術系スタートアップへのインキュベーション投資

3. リスクマネー好循環創出に向けた基盤づくり

我が国のリスクマネーの好循環創出に向けた基盤づくり

- JICは、我が国のリスクマネー供給を質量ともに充実させ、次世代産業を支えるリスクマネーの好循環を創出するため、以下のような役割を果たすことを目指す。
 1. 民間投資の「呼び水」としての役割
 2. 投資知識の「プラットフォーム」としての役割
 3. 投資人材等を「育成」する役割



- ◇ JICとして**投資知識のプラットフォーム**としての役割を果たしていくことを目指す。
 - 投資対象や投資戦略の異なる多様なファンド創出を促し、投資に関心のある企業および人材に**多様性のある投資機会を提供**。
 - JICが投資したファンドとともに、投資分野および手法に関する経験・知見を蓄積し、また投資家、企業団体、学術研究機関等とのネットワークを構築し、**組織横断的な人材と情報の流通を促進**。
 - 経済産業省はじめ諸省庁や公的機関との対話を行い、政策目標の設定ならびに投資成果の評価を実施。また、調査・分析機能を強化し、ファンド投資に役立てるとともに、投資の過程で得られた知見や政策ニーズをフィードバック。これらにより、**政策と投資の好循環を創出**。

- ◇ JICとして我が国のリスクマネー供給を担う**投資人材等の育成**に貢献していくことを目指します。

- JICが主体的に設立するファンドの投資チームが、投資により社会的課題の解決を図りながら、民間資金を受託する能力を高め、**今後の我が国のリスクマネー供給を担う人材としての成長を支援**。

- JICがLP出資する民間ファンドに対しては、**投資家（LP）としてフィードバック**を行い、財務リターンを追求しながら、産業競争力の強化にも貢献できる**民間投資チームの成長プロセスを後押し**。

- 民間ファンドや関連団体等とも連携し、投資実行や価値創造のスキルとともに、ファンドの投資戦略立案、管理および評価等の**様々なスキルをもつプロフェッショナルの育成をサポート**。

◇ 今後、JICとして、投資先ファンドとともに民間事業者や関係団体、政府等とも連携して、リスクマネー供給の好循環創出の基盤づくりに取り組んでいく。

1. ファンド運用者と機関投資家のリンケージ強化のための活動
2. ファンド運用者が抱える共通の課題に関する勉強会やネットワーク等
3. 調査・ナレッジマネジメント機能
 - リスクマネーの好循環に資する情報・知識の分析、発信
 - 産業の競争力強化や関連施策に関する調査機能の強化
 - 海外市場やVC・PE投資の動向に関する情報収集・意見交換 等
4. VC、PE投資におけるESG・SDGsに関する情報収集・意見交換
5. GP・LP投資人材の育成
 - 機関投資家、民間事業者等との人事交流
 - 研修等の実施 等



JAPAN INVESTMENT CORPORATION

(参考資料)

世界的なDXの潮流*

国内外の社会課題の解決

日本経済の持続的な発展に向けて 日本の産業競争力を強化

産業・経済の新陳代謝が必要
新たな成長企業の創出や大胆な事業再編

国内の課題

我が国のリスクマネー供給は他国と比較して圧倒的に不足

JICの役割

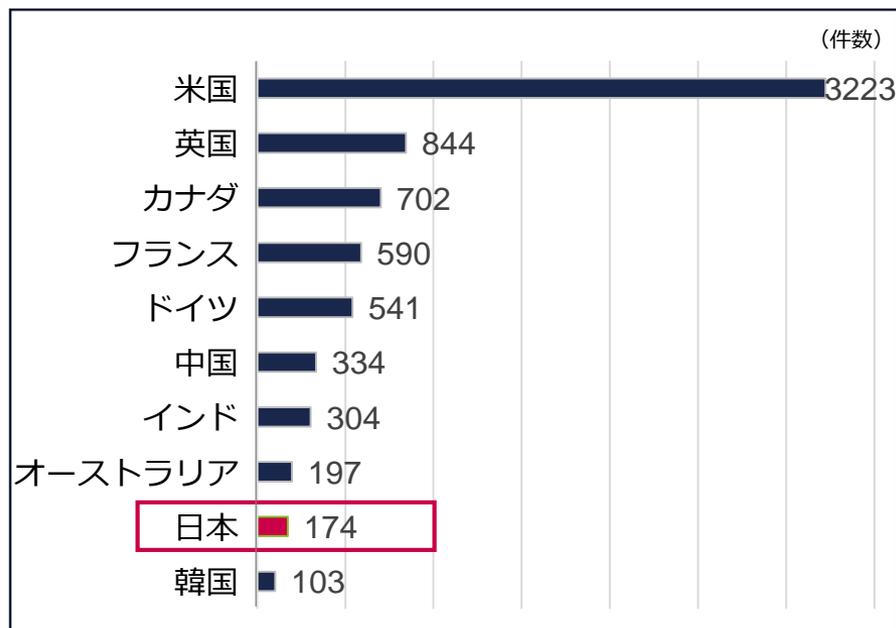
リスクマネーの好循環を生み出す資金と人材を確保

* DX : Digital Transformation 企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること
(出典：経済産業省デジタルトランスフォーメーションを推進するためのガイドライン（DX推進ガイドライン）ver.1.0（2018年12月））

世界の状況と日本の課題

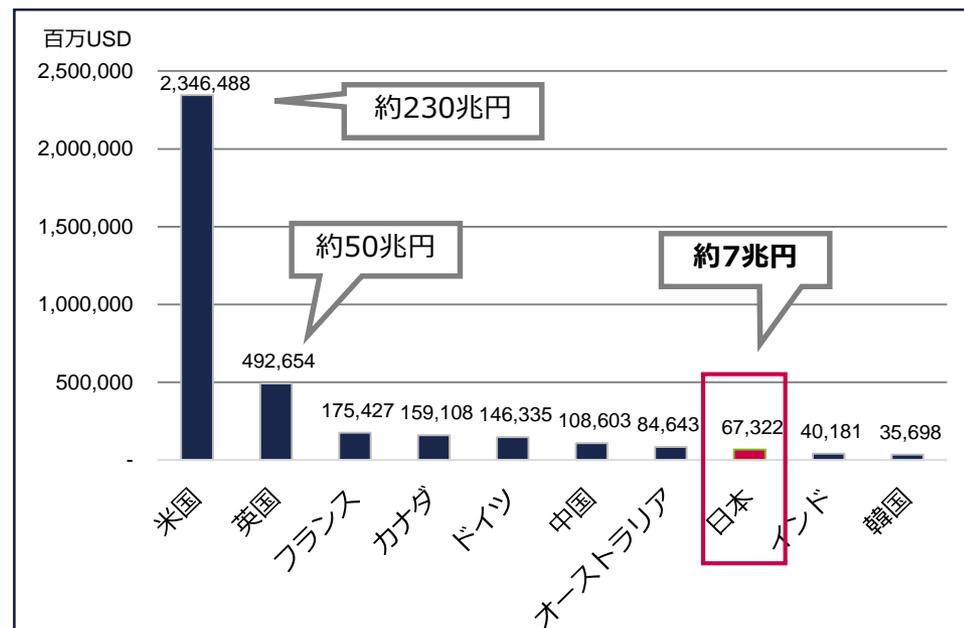
- イノベーションの加速により、グローバルレベルで競争環境や産業構造が急激に変化
- 新たな産業の創造や大胆な事業再編等を加速し、産業競争力の強化・社会課題の解決が必要
- それらを支える我が国におけるリスクマネーの供給量は十分でなく、他国に比べるとその差は依然として大きいのが実態

各国で活動中のPEファーム数



(2016年8月30日時点)

各国におけるPE投資案件の合計金額 (過去20年間)



(2016年9月1日時点)

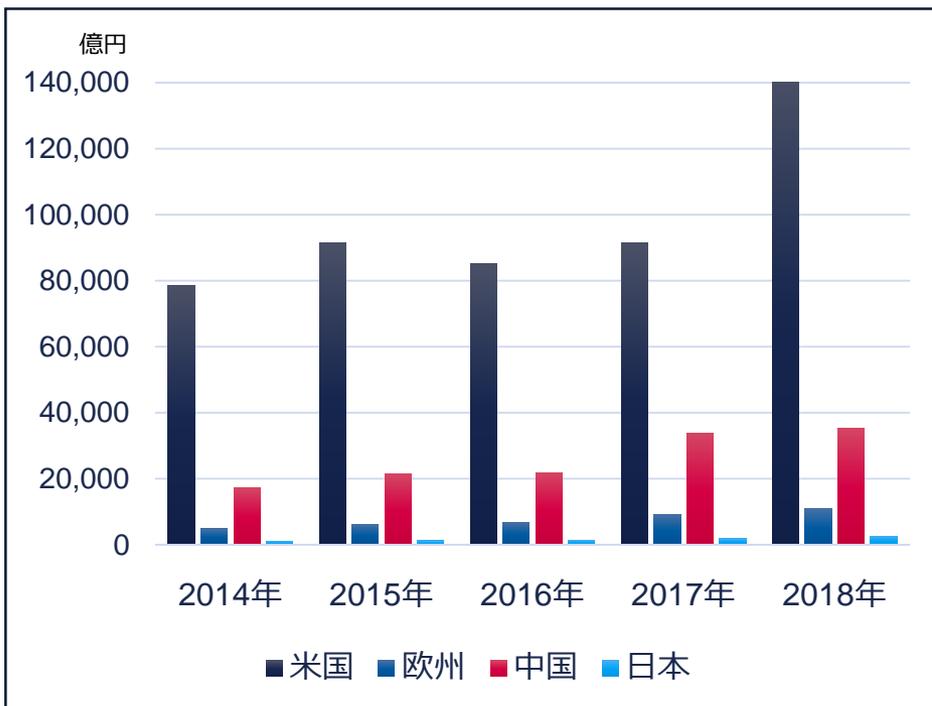
出典：経済産業省「平成28年度産業経済研究委託事業

(ファンドに係るインベストメントチェーンの高度化を通じた我が国企業の産業競争力強化に関する調査研究) 資料編」

- 国際的に米国ベンチャーにリスクマネーが集中。一方、日本はファンド組成状況は低調気味。国内でユニコーンを輩出していくには、国際水準のリスクマネー供給が必要。

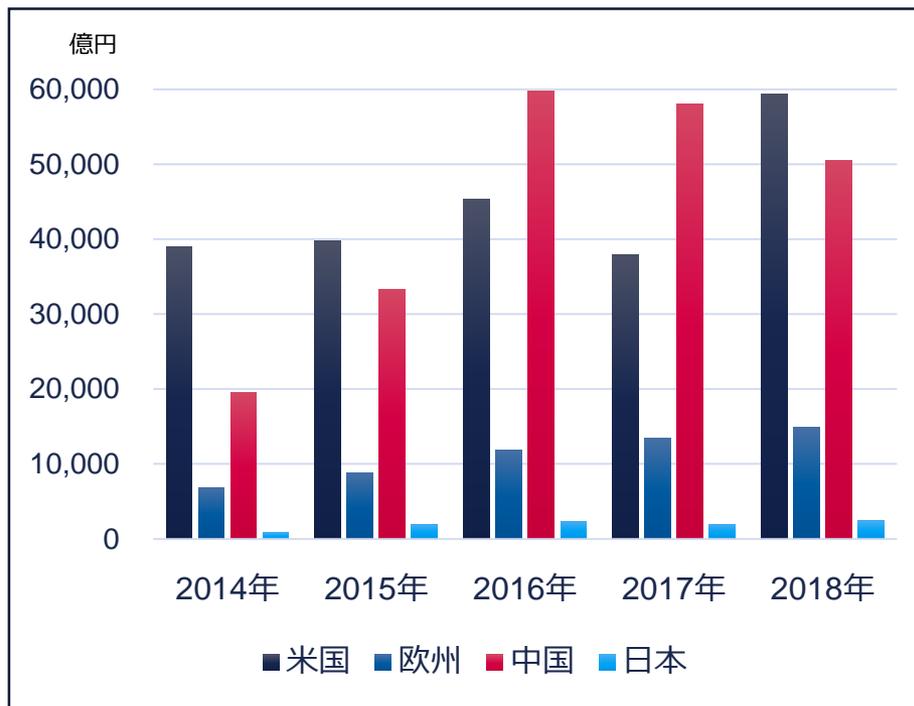
VC投資の国際比較

(金額：米国・欧州・中国・日本)



VCファンド組成の国際比較

(金額：米国・欧州・中国・日本)



出典：一般社団法人ベンチャーエンタープライズセンター
「ベンチャー白書2019」

運用主体	戦略タイプ	投資先 ファンド	JIC LP出資割合	1ファンド への投資額 (億円)	民業補完の 考え方
JICが主体的 に設立する 運用会社	広いカバレッジ	VC、PEで1 ファンドずつ	1号100% 2号以降は 外部資金受託	VC 1,200 PE 2,000 (+共同投資 2,000)	<ul style="list-style-type: none"> 政策課題を フォローしつ つ、民間投資 資金が不足し ているセク ター、ステー ジ、戦略を投 資対象とする
	特定分野・戦略	複数分野を 検討	100%未満	数百	
民間運用会社	民間投資資金が 不足している セクター、戦略 例：ライフサイエンス、 素材、モノづくり、 地方等	現在及び将来 の機関投資家 資金の受託を 期待できる ファンド	個別に検討	数十～数百	<ul style="list-style-type: none"> 民間投資資金 が不足してい る分野 LP資金の縮小 等に対応し、 実績あるファ ンドへのリス クマネーを供 給 民間資金の呼 び水・補完的 機能を果たす
	JICが投資対象 とする分野全般	実績ある ファンド (LPによる新規 コミット縮小等 に対応)			

- JICおよび認可ファンドの役職員は、高度な倫理観を持って以下の行動規範を遵守し、高いパフォーマンスを発揮することに努めます。
- JICは、共同でゼネラルパートナーを務める投資家に対しても、以下の行動規範を最大限尊重し、行動することを求めます。

誠実さと規律ある行動

Integrity & Discipline

卓越した専門家としての矜持

Excellence & Professionalism

責務の遂行と結果に対する説明責任

Accountability & Responsibility

相互の信頼とチームワークに基づく
成果の最大化

Respect & Teamwork

JIC投資基準（経済産業省告示第194号）より抜粋

◇LP出資の位置づけ

機構は、国内民間投資ファンドの育成及び連携並びに国内外の機関投資家等による資金供給の拡大を図り、**民間主体のリスクマネー供給のエコシステムを確立**するとの観点も踏まえ、共同G P（無限責任組合員）やL P（有限責任組合員）出資を通じた特定資金供給も積極的に実施する

◇民間投資資金が不足している分野への投資

国内におけるI T分野のアーリーステージのベンチャーや一定の業種において海外展開する大企業など、**国内民間投資ファンド等の対応力や事業者の資金調達能力及び事業の収益性等**から政策的支援の必要性が認められない事業分野等における事業活動に対する資金供給等を行う国内民間投資ファンド等については、原則として特定資金供給の対象としない

◇投資対象分野の見直し

国内民間投資ファンドの対応状況等の環境変化を踏まえた見直しを適宜行いつつ、機構が期待される我が国のリスクマネー供給の先導役としての役割に注力する

社名	株式会社産業革新投資機構 (Japan Investment Corporation : JIC)
設立	2018年9月
資本金 (資本準備金含む)	3,000億1,000万円 (2020年12月1日現在) (うち政府出資2,860億円、企業出資135億円 (25社))
所在地	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
根拠法	産業競争力強化法 (平成25年法律第98号)
取締役	代表取締役社長CEO 横尾 敬介 取締役CIO 久村 俊幸 取締役CSO 福本 拓也 取締役CFO 齋藤 通雄 社外取締役 榊原 定征 (取締役会議長) 社外取締役 引間 雅史 社外取締役 岡 俊子 社外取締役 忽那 憲治 社外取締役 幸田 博人
監査役	監査役 江戸川 泰路 監査役 末岡 晶子
産業革新投資委員会	榊原 定征 (委員長) 引間 雅史 岡 俊子 忽那 憲治 幸田 博人 横尾 敬介